

株 主 各 位

愛知県春日井市如意申町五丁目2番地の1
株 式 会 社 あ み や き 亭
代表取締役社長 佐 藤 啓 介

第16回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

本年3月の東日本大震災により、被災されました株主の皆様には心からお見舞い申し上げます。

さて、当社第16回定時株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができませんので、お手数ながら後記の株主総会参考書類をご検討いただきまして、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成23年6月14日（火曜日）午後5時までに到着するようご返送くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 日 時 平成23年6月15日（水曜日）午前11時
2. 場 所 愛知県春日井市松新町一丁目5番地
ホテルプラザ勝川 2階 さくら
（末尾の会場ご案内図をご参照ください。）
3. 目的事項
報告事項
 1. 第16期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第16期（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）計算書類報告の件

決議事項

- 第1号議案 剰余金処分の件
- 第2号議案 補欠監査役1名選任の件

以 上

~~~~~  
当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

なお、株主総会参考書類ならびに事業報告、計算書類及び連結計算書類に修正が生じた場合は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス <http://www.amiyakitei.co.jp>）に掲載させていただきます。

## (添付書類)

# 事業報告

(平成22年4月1日から  
平成23年3月31日まで)

## 1. 企業集団の現況

### (1) 事業の経過及びその成果

当連結会計年度におけるわが国経済は、アジアを中心とした新興国向けの輸出の増加による企業成績の回復傾向が鮮明となってきたものの、年度末の東日本大震災により国内経済に及ぼす影響は計り知れず、先行きの影響は見通せない状況となっております。

当業界におきましては、個人所得の低迷や雇用環境への不安による節約志向が継続しており、外食を手控えるなどの生活防衛意識と震災並びに関東地区における計画停電などで消費者マインドの冷え込みから、取り巻く経営環境は一層厳しい状況で推移しております。

このような環境の下、当社グループといたしましては、「お客様に喜んでいただき、選んでいただく店舗作り」を目指し、「食肉の専門集団」である強みを活かした食肉の知識と技術を駆使し、お客様にとって「安心・安全で美味しくて安い」価値観・満足感のある商品を提供することにより他社との差別化を図り、既存店の強化を行ってまいりました。

当連結会計年度末の店舗数につきましては、「あみやき亭」3店舗（大垣店、豊橋下地店、名駅西店）、「美濃路」3店舗（関店、鈴鹿店、岐阜則武店）、「焼肉スエヒロ館」3店舗（立川店、日野店、川口前川店）を新規出店いたしました。また、「かるび家」3店舗（八王子店、西川口店、品川駅前店）、居酒屋「楽市」2店舗（大泉学園店、錦糸町店）、牛しゃぶ「すえひろ」1店舗（銀座コリドー店）を退店したため、175店舗となりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高22,346百万円（前年同期比27.2%増）、損益面におきましては、東日本大震災の被害に対する支援といたしまして、100百万円の義援金を寄付したことから、営業利益2,189百万円（前年同期比19.4%増）、経常利益2,237百万円（前年同期比18.0%増）、当期純利益1,071百万円（前年同期比5.7%増）となりました。

また、株式会社あみやき亭の単体の当事業年度の業績は、売上高19,411百万円（前年同期比13.8%増）、営業利益2,182百万円（前年同期比20.4%増）、経常利益2,269百万円（前年同期比20.6%増）、当期純利益1,233百万円（前年同期比23.8%増）と増収増益となり、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益とも過去最高となりました。

部門別の状況は次のとおりであります。

#### <焼肉事業>

焼肉事業の当連結会計年度末の店舗数は、6店舗新規出店、3店舗（かるび家八王子店、西川口店、品川駅前店）退店した結果、116店舗となりました。内訳は、あみやき亭96店舗、かるび家9店舗、スエヒロ館11店舗（うち、座間店、八重洲店、調布店、戸塚店、大井店は改装休業中）であります。

当社が経営する「あみやき亭」では、品質の向上に徹底的にこだわり、「お客様にとって価値観・満足感のある商品」の提供に努め、既存店強化に努めてまいりました。

株式会社スエヒロレストランシステムが経営する焼肉レストランの「スエヒロ館」につきましては、「かるび家」からの業態変更と新規出店を行っており、「食肉の専門集団」である強みを活かして「チェーン店価格」で和牛中心の商品を提供しております。

以上の結果、焼肉事業の当連結会計年度の売上高は、17,376百万円となりました。

#### <焼鳥事業>

焼鳥事業の当連結会計年度末の店舗数は、3店舗（関店、鈴鹿店、岐阜則武店）新規出店し、53店舗であります。

焼鳥事業は、当社が経営する「元祖やきとり家美濃路」53店舗であります。

焼鳥事業におきまして、焼き師認定制度の活用で、炭火で1本1本手焼きする「焼き」の技術向上に努めるとともに、「美味しくて、安い」焼鳥や釜めしの提供に努めました。

また、店舗運営力向上策といたしまして、店長育成プログラムを刷新し、接客・サービスのレベル向上に向けた社員教育の取組みを行ってまいりました。

以上の結果、焼鳥事業の当連結会計年度の売上高は、3,816百万円となりました。

### <その他の事業>

その他の事業の当連結会計年度末の店舗数は、3店舗（楽市大泉学園店、錦糸町店、牛しゃぶ銀座コリドー店）退店、3店舗（楽市八重洲店、レストランスエヒロ大井店、座間店）は焼肉業態（焼肉のスエヒロ館）に変更（現在改装協議中）したため、6店舗となりました。

内訳は、株式会社スエヒロレストランシステムが経営する、レストランの「スエヒロ館」2店舗（うち東林間店は改装休業中）、「SUEHIRO」1店舗、居酒屋「楽市」3店舗であります。

レストランの「SUEHIRO」につきましては、平成22年11月1日にレストラン「SUEHIRO川崎店」を改装し、「食肉の専門集団」である当社グループの強みを活かした低価格の「100%国産ハンバーグ」「国産牛ステーキ」を提供するハンバーグ・ステーキの「スエヒロ館川崎店」として新たにスタートいたしました。

また、居酒屋「楽市」につきましても、メニュー開発を行うとともに、商品の品質向上やお客様の立場に立った接客・サービスの向上に努めてまいりました。

以上の結果、その他の事業の当連結会計年度の売上高は、1,152百万円となりました。

## (2) 設備投資の状況

当連結会計年度中に実施いたしました設備投資の総額は1,105百万円であり、主なものは次のとおりであります。

当連結会計年度中に取得及び完成した主な設備

|      |                    |     |
|------|--------------------|-----|
| 焼肉事業 | あみやき亭大垣店、スエヒロ館日野店他 | 6店舗 |
| 焼鳥事業 | 元祖やきとり家美濃路関店他      | 3店舗 |

### (3) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

#### ① 企業集団の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第 13 期<br>平成20年3月期 | 第 14 期<br>平成21年3月期 | 第 15 期<br>平成22年3月期 | 第 16 期<br>(当連結会計年度)<br>平成23年3月期 |
|----------------|--------------------|--------------------|--------------------|---------------------------------|
| 売 上 高(百万円)     | —                  | —                  | 17,572             | 22,346                          |
| 経 常 利 益(百万円)   | —                  | —                  | 1,896              | 2,237                           |
| 当 期 純 利 益(百万円) | —                  | —                  | 1,013              | 1,071                           |
| 1株当たり当期純利益 (円) | —                  | —                  | 14,796.55          | 15,642.72                       |
| 総 資 産(百万円)     | —                  | —                  | 13,352             | 14,530                          |
| 純 資 産(百万円)     | —                  | —                  | 10,500             | 11,365                          |

(注) 1. 当社では、第15期より連結計算書類を作成しております。

2. 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。

#### ② 当社の財産及び損益の状況

| 区 分            | 第 13 期<br>平成20年3月期 | 第 14 期<br>平成21年3月期 | 第 15 期<br>平成22年3月期 | 第 16 期<br>(当事業年度)<br>平成23年3月期 |
|----------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|
| 売 上 高(百万円)     | 14,382             | 15,409             | 17,052             | 19,411                        |
| 経 常 利 益(百万円)   | 1,600              | 1,367              | 1,882              | 2,269                         |
| 当 期 純 利 益(百万円) | 901                | 663                | 996                | 1,233                         |
| 1株当たり当期純利益 (円) | 13,163.89          | 9,689.30           | 14,551.64          | 18,009.83                     |
| 総 資 産(百万円)     | 11,060             | 11,521             | 12,925             | 14,276                        |
| 純 資 産(百万円)     | 9,200              | 9,676              | 10,483             | 11,510                        |

(注) 1株当たり当期純利益は、期中平均発行済株式総数に基づき算出しております。

#### (4) 対処すべき課題

##### ① 人材の確保と育成

今後出店スピードを加速させる当社グループにとって、人材の確保と育成は最重要課題として位置付けております。

採用については、優秀なアルバイトを社員として採用することに全社的に取り組むとともに、外食経験者を中心とした中途採用に加えて新卒採用も積極的に進めるなど、あらゆる手段を講じて積極的に人材の確保に努めてまいります。

人材育成については、焼肉業態の「あみやき亭大学」と焼鳥業態の「美濃路大学」のカリキュラムを一層充実させて、店長候補者などの将来幹部となり得る人材の育成に力を入れてまいります。

##### ② 安全安心な商品の提供

商品の安全性は、最重要課題と認識しており、当社グループにおきましては、仕入食材の品質管理、加工段階における衛生管理、配送段階における温度管理と鮮度の維持において、社内体制を一層強化するとともに、信頼できる取引先の選定を行い、指導・教育を行ってまいります。

##### ③ 震災等自然災害への対応

震災等自然災害などの緊急事態が発生した場合に備え、安定的な食材の確保と店舗への供給体制の強化、店舗における震災・防災体制の強化などに取り組んでまいります。

#### (5) 重要な親会社及び子会社の状況

##### ① 親会社との関係

該当事項はありません。

##### ② 重要な子会社の状況

| 会社名                   | 資本金又は<br>出資金 | 当社の出資比率 | 主要な事業の内容                                                   |
|-----------------------|--------------|---------|------------------------------------------------------------|
| 株式会社スエヒロ<br>レストランシステム | 30百万円        | 100%    | 焼肉レストラン「スエヒロ館」<br>「かるび家」<br>レストラン「スエヒロ館」<br>居酒屋「楽市」<br>の経営 |

(6) 主要な事業内容（平成23年3月31日現在）

- ① 焼肉レストラン「あみやき亭」「スエヒロ館」「かるび家」の経営
- ② 焼鳥専門店 「元祖やきとり家美濃路」の経営
- ③ レストラン 「スエヒロ館」「SUEHIRO」の経営
- ④ 居酒屋 「楽市」の経営

(7) 主要な営業所及び工場（平成23年3月31日現在）

- ① 当社本社 愛知県春日井市
- ② 加工場 愛知県春日井市、神奈川県大和市
- ③ 直営店舗 175店舗

※なお、東日本大震災による影響は、関東地区店舗において計画停電による一部店舗の営業停止等はありませんでしたが、大きな支障は無く正常通り営業をいたしております。

(8) 使用人の状況（平成23年3月31日現在）

① 企業集団の使用人の状況

| 使 用 人 数       | 前連結会計年度末比増減 |
|---------------|-------------|
| 390 (2,070) 名 | 0 (72) 名    |

(注) 使用人数は就業人員（当社グループから社外への出向者を除き、社外から当社グループ出向者を含むほか、常用パートを含んでおります。）であり、臨時雇用者数は、年間の平均員を（ ）で記載しております。

② 当社の使用人の状況

| 使 用 人 数       | 前事業年度末比増減  |
|---------------|------------|
| 327 (1,793) 名 | 25 (58) 名増 |

(注) 使用人数は就業人員であり、臨時雇用者数は、年間の平均員を（ ）で記載しております。

(9) 主要な借入先の状況（平成23年3月31日現在）

該当事項はありません。

## 2. 会社の現況（平成23年3月31日現在）

### (1) 株式の状況

- |              |          |
|--------------|----------|
| ① 発行可能株式総数   | 144,000株 |
| ② 発行済株式の総数   | 68,488株  |
| ③ 株主数        | 9,102名   |
| ④ 大株主（上位10名） |          |

| 株 主 名                                          | 持 株 数  | 持 株 比 率 |
|------------------------------------------------|--------|---------|
|                                                | 株      | %       |
| チャレンジブイコーポレーション有限会社                            | 14,640 | 21.37   |
| 佐藤啓介                                           | 12,550 | 18.32   |
| 日本トラスティ・サービス<br>信託銀行株式会社（信託口）                  | 6,368  | 9.29    |
| 米久株式会社                                         | 4,400  | 6.42    |
| 佐藤さい                                           | 2,900  | 4.23    |
| 日本マスタートラスト<br>信託銀行株式会社（信託口）                    | 2,714  | 3.96    |
| 野村信託銀行株式会社（投信口）                                | 670    | 0.97    |
| THE BANK OF NEW YORK -<br>JASDECTREATY ACCOUNT | 666    | 0.97    |
| 資産管理サービ<br>ス信託銀行株式会社（証券投資信託口）                  | 579    | 0.84    |
| MELLON BANK ABN AMRO<br>GLOBAL CUSTODY N.V.    | 455    | 0.66    |

### (2) 会社役員の状況

#### ① 取締役及び監査役の状況（平成23年3月31日現在）

| 地 位     | 氏 名  | 担当及び重要な兼職の状況                         |
|---------|------|--------------------------------------|
| 代表取締役社長 | 佐藤啓介 | 株式会社スエヒロレストランシステム代表取締役会長             |
| 専務取締役   | 小坂治樹 | フードシステム本部長                           |
| 常務取締役   | 福井啓雄 | マーケティング本部長<br>株式会社スエヒロレストランシステム取締役社長 |
| 常務取締役   | 千々和康 | 管理本部長                                |
| 取締役     | 竹内隆盛 | 内部監査室長                               |
| 取締役     | 秋岡賢治 | プライムデリカ株式会社監査役                       |
| 常勤監査役   | 山田修三 |                                      |
| 監査役     | 大西秀典 |                                      |
| 監査役     | 隅田慶彦 |                                      |

- (注) 1. 取締役秋岡賢治は社外取締役であります。  
 2. 取締役秋岡賢治は第15回定時株主総会にて選任されました。  
 3. 監査役山田修三、大西秀典及び隅田慶彦の各氏は、社外監査役であります。  
 4. 常務取締役 福井啓雄は平成22年6月10日付で株式会社スエヒロレストランシステム取締役社長に就任いたしました。



## ② 取締役及び監査役に支払った報酬等の総額

| 区 分              | 支給人員     | 支給額           |
|------------------|----------|---------------|
| 取締役<br>(うち社外取締役) | 6<br>(1) | 120百万円<br>(2) |
| 監査役<br>(うち社外監査役) | 3<br>(3) | 11<br>(11)    |
| 合計               | 9        | 131           |

(注) 1. 取締役の報酬限度額は、平成13年6月28日開催の第6回定時株主総会において年額300百万円以内(ただし、使用人分給与は含まない。)と決議いただいております。

2. 監査役の報酬限度額は、平成13年6月28日開催の第6回定時株主総会において年額60百万円以内と決議いただいております。

## ③ 社外役員に関する事項

### イ 重要な兼職先との当社との関係(平成23年3月31日現在)

| 地位  | 氏名    | 重要な兼職の状況           |
|-----|-------|--------------------|
| 取締役 | 秋岡 賢治 | プライムデリカ株式会社<br>監査役 |

(注) 当社とプライムデリカ株式会社との間には、資本関係、その他取引関係はありません。

### ロ 当事業年度における主な活動状況

- ・取締役会及び監査役会への出席状況(平成22年4月～平成23年3月)

|           | 取締役会(17回開催) |      | 監査役会(14回開催) |      |
|-----------|-------------|------|-------------|------|
|           | 出席回数        | 出席率  | 出席回数        | 出席率  |
| 取締役 秋岡 賢治 | 8回          | 67%  | 一回          | —%   |
| 監査役 山田 修三 | 17回         | 100% | 14回         | 100% |
| 監査役 大西 秀典 | 14回         | 82%  | 14回         | 100% |
| 監査役 隅田 慶彦 | 13回         | 76%  | 13回         | 93%  |

(注) 取締役 秋岡賢治氏につきましては、同氏の取締役就任後開催の取締役会は12回であります。

- ・取締役会における発言状況

社外取締役及び各社外監査役は、出席した取締役会においては、社外取締役及び社外監査役として、報告事項や決議事項について適宜質問するとともに、必要に応じて社外の立場から意見を述べております。

- ・監査役会における発言状況

各社外監査役は、出席した監査役会においては、社外監査役として行った監査の報告をし、他の監査役が行った監査について適宜質問するとともに、必要に応じて社外の立場から意見を述べております。

### ハ 責任限定契約の内容の概要

該当事項はありません。

### (3) 会計監査人に関する事項

① 名称 有限責任 あずさ監査法人

(注) なお、あずさ監査法人は、監査法人の種類の変更により、平成22年7月1日をもって有限責任 あずさ監査法人となっております。

② 報酬等の額

当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 20百万円  
当社及び子会社が会計監査人に支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額 20百万円

(注) 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。

③ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

取締役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、監査役会の同意を得たうえで、または、監査役会の請求に基づいて、会計監査人の解任または不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役会全員の同意に基づき監査役会が、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

### (4) 業務の適正を確保するための体制

取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
その他会社の業務の適正を確保するための体制についての決定内容の概要は以下のとおりであります。

① 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

「取締役会規程」に基づき、毎月取締役会を開催しております。

「取締役会規程」において、重要な業務執行について取締役会に付議すべき事項を具体的に定め、取締役会で決定を行っております。

監査役は、取締役会に出席し、取締役の業務執行状況について監視を行っております。

監査役と社長直轄の内部監査室は連携し、コンプライアンス体制の調査、法令並びに定款上の問題の有無を定期的に調査して、取締役会に報告し、問題点の把握・改善に努める体制となっております。

- ② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制  
取締役の職務執行に係る情報は、「文書管理規程」に基づき、保存・管理しております。
- ③ 損失の危険の管理に関する規程その他の整備  
管理本部長をリスク管理の統括責任者として、各部門の部門長を部門別のリスク管理責任者として、関連規程やマニュアル・ガイドラインを制定し、部門毎のリスク管理体制を構築しております。
- ④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
将来の事業環境を見据えたうえで経営方針を定め、同方針を機軸に年度計画を策定しております。  
経営に関する重要事項は、年度計画を踏まえて、月例及び随時に取締役会を開催し、審議・決定を行っております。  
各部門においては、経営目標の達成と重要事項の推進に向けて活動し、毎週行われる部長会議で業績・進捗状況等について報告を通じて検証するほか、経営課題解決の議論を行っております。  
上記についての実効性を確保するため、職務分掌規程、職務権限規程等、各種社内規程を整備し、取締役の権限及び責任の明確化を図り、取締役が適正かつ効率的に職務の執行を行い得る体制を構築しております。
- ⑤ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制  
管理本部長をコンプライアンス全体に関する統括責任者として、各部門の部門長を部門別のコンプライアンス責任者として、関連規程やマニュアル・ガイドラインを制定し、部門毎のコンプライアンス体制を構築しております。  
使用人がコンプライアンス上、疑義ある行為を認知し、それを告発しても当該使用人に不利益な扱いを行わない「内部通報制度」を整備しております。
- ⑥ 会社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
イ. 子会社の統括管理を管理部門が行い、各部門は担当事務に応じた管理を行っております。  
ロ. 子会社の取締役、監査役を当社から派遣し、子会社の業務執行状況を監督、監査しております。

ハ、子会社は当社との連携を保ちながら自社の事業規模、特性を踏まえ、自ら内部統制システムを整備しております。

※子会社は、財務報告の信頼性確保のため、当社の定める「財務報告基本方針」に従い財務報告に係る内部統制を整備し、適切に運用しております。

⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役がその必要を求めた場合には、これを置くことしております。

⑧ 前号の使用人の取締役からの独立性に関する事項

補助の使用人を置く場合には、当該使用人への指揮権は監査役に委譲し、取締役からの独立性を確保します。

⑨ 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制、その他の監査役への報告に関する事項

監査役は、取締役会に出席し、取締役より、重要事項の報告を受け、関係書類の配布並びに詳細な説明を受けております。

取締役及び使用人は、当社の業績または業績に与える重要な事項について監査役に報告し、職務の執行に関する法令違反、定款違反及び不正行為の事実、または当社に損害を及ぼす事実を知った時は、遅滞なく報告します。

⑩ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は、必要に応じて取締役及び使用人に対し報告を求めることができるものとし、会計監査人、内部監査部門などと連携して当社の監査の実効性を確保します。

## 連結貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目                    | 金 額           | 科 目                          | 金 額           |
|------------------------|---------------|------------------------------|---------------|
| <b>資 産 の 部</b>         |               | <b>負 債 の 部</b>               |               |
| <b>流 動 資 産</b>         | <b>6,683</b>  | <b>流 動 負 債</b>               | <b>2,846</b>  |
| 現金及び預金                 | 6,124         | 買掛金                          | 818           |
| 預け金                    | 61            | 未払金及び未払費用                    | 995           |
| 売掛金                    | 2             | 未払法人税等                       | 590           |
| 商品及び製品                 | 37            | 引当金                          | 158           |
| 原材料及び貯蔵品               | 123           | その他                          | 282           |
| 繰延税金資産                 | 114           | <b>固 定 負 債</b>               | <b>318</b>    |
| その他                    | 220           | 負ののれん                        | 0             |
| <b>固 定 資 産</b>         | <b>7,847</b>  | 繰延税金負債                       | 17            |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>     | <b>5,851</b>  | 資産除去債務                       | 224           |
| 建物                     | 4,540         | その他                          | 76            |
| 構築物                    | 366           | <b>負 債 合 計</b>               | <b>3,165</b>  |
| 機械及び装置                 | 178           | <b>純 資 産 の 部</b>             |               |
| 車両運搬具                  | 4             | <b>株 主 資 本</b>               | <b>11,368</b> |
| 器具及び備品                 | 198           | 資本金                          | 2,473         |
| 土地                     | 489           | 資本剰余金                        | 2,426         |
| 建設仮勘定                  | 72            | 資本準備金                        | 2,426         |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>     | <b>57</b>     | <b>利 益 剰 余 金</b>             | <b>6,467</b>  |
| ソフトウェア                 | 11            | 利益準備金                        | 36            |
| その他                    | 45            | その他利益剰余金                     | 6,430         |
| <b>投 資 そ の 他 の 資 産</b> | <b>1,938</b>  | 別途積立金                        | 4,800         |
| 投資有価証券                 | 9             | 繰越利益剰余金                      | 1,630         |
| 長期貸付金                  | 263           | <b>そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額</b> | <b>△2</b>     |
| 繰延税金資産                 | 205           | その他有価証券評価差額金                 | △2            |
| 差入保証金                  | 999           | <b>純 資 産 合 計</b>             | <b>11,365</b> |
| その他                    | 460           | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>       | <b>14,530</b> |
| <b>資 産 合 計</b>         | <b>14,530</b> |                              |               |

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

## 連結損益計算書

(平成22年4月1日から)  
(平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目                         | 金 額   |        |
|-----------------------------|-------|--------|
| 売 上 高                       |       | 22,346 |
| 売 上 原 価                     |       | 8,189  |
| 売 上 総 利 益                   |       | 14,157 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費         |       | 11,967 |
| 営 業 利 益                     |       | 2,189  |
| 営 業 外 収 益                   |       |        |
| 受 取 利 息                     | 15    |        |
| 受 取 配 当 金                   | 0     |        |
| 雑 収 入                       | 37    | 53     |
| 営 業 外 費 用                   |       |        |
| 雑 損 失                       | 5     | 5      |
| 経 常 利 益                     |       | 2,237  |
| 特 別 利 益                     |       |        |
| 受 取 保 険 金                   | 7     |        |
| 店 舗 閉 鎖 損 失 引 当 金 戻 入 額     | 8     |        |
| そ の 他                       | 0     | 16     |
| 特 別 損 失                     |       |        |
| 固 定 資 産 除 却 損               | 66    |        |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額         | 89    |        |
| そ の 他                       | 4     | 160    |
| 税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益       |       | 2,093  |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税     | 1,001 |        |
| 法 人 税 等 調 整 額               | 21    | 1,022  |
| 少 数 株 主 損 益 調 整 前 当 期 純 利 益 |       | 1,071  |
| 当 期 純 利 益                   |       | 1,071  |

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

## 連結株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から)  
(平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                           | 株 主 資 本 |           |         |           |          |         |         | 株主資本合計 |
|---------------------------|---------|-----------|---------|-----------|----------|---------|---------|--------|
|                           | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |         | 利 益 剰 余 金 |          |         |         |        |
|                           |         | 資本準備金     | 資本剰余金合計 | 利益準備金     | その他利益剰余金 |         | 利益剰余金合計 |        |
|                           |         |           |         |           | 別途積立金    | 繰越利益剰余金 |         |        |
| 平成22年3月31日 残高             | 2,473   | 2,426     | 2,426   | 36        | 4,300    | 1,264   | 5,601   | 10,502 |
| 連結会計年度中の変動額               |         |           |         |           |          |         |         |        |
| 別途積立金の積立                  |         |           |         |           | 500      | △500    | —       | —      |
| 剰余金の配当                    |         |           |         |           |          | △205    | △205    | △205   |
| 当期純利益                     |         |           |         |           |          | 1,071   | 1,071   | 1,071  |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) |         |           |         |           |          |         |         |        |
| 連結会計年度中の変動額合計             | —       | —         | —       | —         | 500      | 365     | 865     | 865    |
| 平成23年3月31日 残高             | 2,473   | 2,426     | 2,426   | 36        | 4,800    | 1,630   | 6,467   | 11,368 |

|                           | その他の包括利益累計額  |               | 純 資 産 合 計 |
|---------------------------|--------------|---------------|-----------|
|                           | その他有価証券評価差額金 | その他の包括利益累計額合計 |           |
| 平成22年3月31日 残高             | △1           | △1            | 10,500    |
| 連結会計年度中の変動額               |              |               |           |
| 別途積立金の積立                  |              |               | —         |
| 剰余金の配当                    |              |               | △205      |
| 当期純利益                     |              |               | 1,071     |
| 株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額) | △0           | △0            | △0        |
| 連結会計年度中の変動額合計             | △0           | △0            | 865       |
| 平成23年3月31日 残高             | △2           | △2            | 11,365    |

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

## 連結注記表

### 1. 連結計算書類の作成のための基本となる重要な事項に関する注記

連結の範囲に関する事項

- ・ 連結子会社の数 1 社
- ・ 連結子会社の名称 株式会社スエヒロレストランシステム

### 2. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### イ 有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

##### ロ たな卸資産

評価基準は原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

##### (1) 原材料・商品

先入先出法

##### (2) 製品

総平均法

##### (3) 貯蔵品

最終仕入原価法

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### イ 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法を採用しております。また当社は事業用定期借地権上の建物については耐用年数を借地期間、残存価額を零とする定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15年～31年

器具及び備品 3年～8年

##### ロ 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

##### ハ 長期前払費用

定額法を採用しております。



## ニ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

### (3) 重要な引当金の計上基準

#### イ 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### ロ 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、将来の支給見込額のうち、当連結会計年度に対応する額を計上しております。

#### ハ 退職給付引当金

連結子会社において従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

#### ニ 株主優待引当金

当社において、将来の株主優待券の利用による費用の発生に備えるため、株主優待券の利用実績率に基づいて、翌連結会計年度以降に発生すると見込まれる額を計上しております。

#### ホ ポイント引当金

将来のポイントサービスの利用による費用の発生に備えるため、ポイントサービスの利用実績率に基づいて、翌連結会計年度以降に発生すると見込まれる額を計上しております。

#### ヘ 店舗撤退損失引当金

店舗撤退に伴い発生する損失に備えるため、合理的に見込まれる損失額を計上しております。

### (4) その他連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

### (5) 会計方針の変更

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当連結会計年度の営業利益、経常利益はそれぞれ17百万円減少しており、税金等調整前当期純利益は106百万円減少しております。

また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は224百万円であります。

### (6) 表示方法の変更

イ 「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づき「会社法施行規則、会社計算規則等の一部を改正する省令」(平成21年法務省令第7号)の適用により、当連結会計年度から「少数株主損益調整前当期純利益」の科目で表示しております。

ロ 会社計算規則の改正に伴い、当連結会計年度より連結貸借対照表及び連結株主資本等変動計算書における「評価・換算差額等」は「その他の包括利益累計額」として表示する方法に変更しております。

### 3. 連結貸借対照表に関する注記

有形固定資産の減価償却累計額

4,195百万円

### 4. 連結株主資本等変動計算書に関する注記

#### (1) 発行済株式の総数に関する事項

| 株式の種類 | 前連結会計年度末の株式数 | 当連結会計年度増加株式数 | 当連結会計年度減少株式数 | 当連結会計年度末の株式数 |
|-------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 普通株式  | 68,488株      | 一株           | 一株           | 68,488株      |

#### (2) 剰余金の配当に関する事項

##### ① 配当金支払額等

イ. 平成22年6月16日開催の第15回定時株主総会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 102百万円
- ・1株当たり配当金額 1,500円
- ・基準日 平成22年3月31日
- ・効力発生日 平成22年6月17日

ロ. 平成22年10月4日開催の取締役会決議による配当に関する事項

- ・配当金の総額 102百万円
- ・1株当たり配当金額 1,500円
- ・基準日 平成22年9月30日
- ・効力発生日 平成22年12月9日

② 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期になるもの  
平成23年6月15日開催予定の第16回定時株主総会において次のとおり付議いたします。

- ・配当金の総額 102百万円
- ・配当の原資 利益剰余金
- ・1株当たり配当金額 1,500円
- ・基準日 平成23年3月31日
- ・効力発生日 平成23年6月16日

### 5. 金融商品に関する注記

#### (1) 金融商品の状況に関する事項

##### ① 金融商品の状況に関する取組方針

当社グループは、必要な資金を主に自己資金で賄っており、余資は安全性の高い金融資産で運用しております。またデリバティブ取引は行っておりません。

② 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び預け金は、取引先の信用リスクにさらされていますが、回収までの期間はおおむね短期であり、貸倒実績率は低いものとなっています。当該リスクについては、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、営業部が取引先の状況をモニタリングし、財務状況の悪化等を把握したときは速やかに対応するなどリスク軽減に努めています。

有価証券は、上場株式であり、主に業務上の関係を有する取引先企業の株式です。これらは、発行体等の信用リスク及び市場価格・為替・金利の変動リスクにさらされています。当該リスクについては、定期的にこれらの時価や発行体の財務状況等を把握し、リスク軽減に努めています。

長期貸付金は主に土地所有者への建物建設に伴う資金として、差入保証金は主に出店に伴う差入保証金であり、店舗建物所有者の信用リスクにさらされております。当該リスクについては、取引先ごとに期日及び残高を管理するとともに、営業部が取引先の状況をモニタリングし、財務状況の悪化等を把握したときは速やかに対応するなどリスク軽減に努めています。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。

|                 | 連結貸借対照表計上額<br>(百万円) | 時価 (百万円) | 差額 (百万円) |
|-----------------|---------------------|----------|----------|
| (1) 現金及び預金      | 6,124               | 6,124    | —        |
| (2) 預 け 金       | 61                  | 61       | —        |
| (3) 売 掛 金       | 2                   | 2        | —        |
| (4) 投資有価証券      | 9                   | 9        | —        |
| (5) 長期貸付金(純額)   | 263                 | 311      | 48       |
| (6) 差入保証金(純額)   | 999                 | 857      | △142     |
| (7) 買 掛 金       | 818                 | 818      | —        |
| (8) 未 払 金       | 225                 | 225      | —        |
| (9) 未 払 法 人 税 等 | 590                 | 590      | —        |

(注1) (1) 現金及び預金、(2) 預け金、(3) 売掛金

これらは短期間で決済される性格のものであるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいと言えることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

上場会社の株式であり、時価は取引所の価格によっております。

(5) 長期貸付金

事業に係る建設協力金であり、時価はその将来キャッシュ・フローをリスクフリー・レートに信用スプレッドを上乗せした割引率で割り引いた現在価値により算定しています。

(6) 差入保証金

事業に係る差入保証金であり、時価は将来キャッシュ・フローをリスクフリー・レートに信用スプレッドを上乗せした割引率で割り引いた現在価値により算定しております。

(7) 買掛金、(8) 未払金、(9) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品  
該当事項はありません。

6. 賃貸等不動産に関する注記

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、注記を省略しております。

7. 1株当たり情報に関する注記

|                |            |
|----------------|------------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 165,946円8銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 15,642円72銭 |

8. 減損会計に関する注記

該当事項はありません。

9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

10. 資産除去債務関係の注記

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸契約及び定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該契約の契約期間及び建物の耐用年数（主に20年）と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回り（主に2.17%）を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

(3) 当連結会計年度における当該資産除去債務の総額の増減

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 期首残高（注）         | 216百万円        |
| 有形固定資産の取得に伴う増加額 | 17百万円         |
| 時の経過による調整額      | 4百万円          |
| 資産除去債務の履行による減少額 | <u>△13百万円</u> |
| 期末残高            | <u>224百万円</u> |

(注) 当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用したことによる期首時点における残高であります。

## 貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位：百万円)

| 科 目                  | 金 額           | 科 目                    | 金 額           |
|----------------------|---------------|------------------------|---------------|
| <b>資 産 の 部</b>       |               | <b>負 債 の 部</b>         |               |
| <b>流 動 資 産</b>       | <b>6,524</b>  | <b>流 動 負 債</b>         | <b>2,538</b>  |
| 現金及び預金               | 6,016         | 買掛金                    | 769           |
| 預け金                  | 56            | リース債務                  | 1             |
| 売掛金                  | 24            | 未払金                    | 250           |
| 商品及び製品               | 31            | 未払費用                   | 537           |
| 原材料及び貯蔵品             | 121           | 未払法人税等                 | 586           |
| 前払費用                 | 124           | 未払消費税等                 | 142           |
| 繰延税金資産               | 114           | 預り金                    | 53            |
| その他                  | 35            | 前受収益                   | 30            |
| <b>固 定 資 産</b>       | <b>7,752</b>  | 賞与引当金                  | 74            |
| <b>有 形 固 定 資 産</b>   | <b>4,760</b>  | 役員賞与引当金                | 20            |
| 建物                   | 3,972         | 株主優待引当金                | 3             |
| 構築物                  | 323           | ポイント引当金                | 23            |
| 機械及び装置               | 139           | その他                    | 46            |
| 車両運搬具                | 4             | <b>固 定 負 債</b>         | <b>226</b>    |
| 器具及び備品               | 158           | リース債務                  | 25            |
| 土地                   | 121           | 資産除去債務                 | 188           |
| 建設仮勘定                | 40            | 長期リース資産減損勘定            | 12            |
| <b>無 形 固 定 資 産</b>   | <b>47</b>     | <b>負 債 合 計</b>         | <b>2,765</b>  |
| ソフトウェア               | 2             | <b>純 資 産 の 部</b>       |               |
| その他                  | 45            | <b>株 主 資 本</b>         | <b>11,513</b> |
| <b>投 資 其 他 の 資 産</b> | <b>2,944</b>  | 資本金                    | 2,473         |
| 投資有価証券               | 7             | 資本剰余金                  | 2,426         |
| 関係会社株式               | 0             | 資本準備金                  | 2,426         |
| 長期貸付金                | 216           | 利益剰余金                  | 6,612         |
| 関係会社長期貸付金            | 1,465         | 利益準備金                  | 36            |
| 長期前払費用               | 182           | その他利益剰余金               | 6,576         |
| 繰延税金資産               | 205           | 別途積立金                  | 4,800         |
| 差入保証金                | 635           | 繰越利益剰余金                | 1,776         |
| 保険積立金                | 232           | 評価・換算差額等               | △2            |
|                      |               | その他有価証券評価差額金           | △2            |
| <b>資 産 合 計</b>       | <b>14,276</b> | <b>純 資 産 合 計</b>       | <b>11,510</b> |
|                      |               | <b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b> | <b>14,276</b> |

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

# 損 益 計 算 書

(平成22年4月1日から)  
(平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

| 科 目                     | 金 額 |        |
|-------------------------|-----|--------|
| 売 上 高                   |     | 19,411 |
| 売 上 原 価                 |     | 7,434  |
| 売 上 総 利 益               |     | 11,977 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費     |     | 9,795  |
| 営 業 利 益                 |     | 2,182  |
| 営 業 外 収 益               |     |        |
| 受 取 利 息                 | 33  |        |
| 受 取 配 当 金               | 0   |        |
| 受 取 賃 貸 料               | 27  |        |
| 協 賛 金 収 入               | 9   |        |
| そ の 他                   | 19  | 90     |
| 営 業 外 費 用               |     |        |
| そ の 他                   | 3   | 3      |
| 経 常 利 益                 |     | 2,269  |
| 特 別 利 益                 |     |        |
| 保 険 金 収 入               | 7   | 7      |
| 特 別 損 失                 |     |        |
| 固 定 資 産 除 却 損           | 47  |        |
| 投 資 有 価 証 券 評 価 損       | 0   |        |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額     | 63  | 111    |
| 税 引 前 当 期 純 利 益         |     | 2,165  |
| 法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税 | 994 |        |
| 法 人 税 等 調 整 額           | △62 | 931    |
| 当 期 純 利 益               |     | 1,233  |

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

## 株主資本等変動計算書

(平成22年4月1日から)  
(平成23年3月31日まで)

(単位：百万円)

|                         | 株 主 資 本 |           |         |           |          |         |         | 株主資本合計 |
|-------------------------|---------|-----------|---------|-----------|----------|---------|---------|--------|
|                         | 資 本 金   | 資 本 剰 余 金 |         | 利 益 剰 余 金 |          |         |         |        |
|                         |         | 資本準備金     | 資本剰余金合計 | 利益準備金     | その他利益剰余金 |         | 利益剰余金合計 |        |
|                         |         |           |         |           | 別途積立金    | 繰越利益剰余金 |         |        |
| 平成22年3月31日 残高           | 2,473   | 2,426     | 2,426   | 36        | 4,300    | 1,248   | 5,584   | 10,485 |
| 事業年度中の変動額               |         |           |         |           |          |         |         |        |
| 別途積立金の横立                |         |           |         |           | 500      | △500    | —       | —      |
| 剰余金の配当                  |         |           |         |           |          | △205    | △205    | △205   |
| 当期純利益                   |         |           |         |           |          | 1,233   | 1,233   | 1,233  |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) |         |           |         |           |          |         |         |        |
| 事業年度中の変動額合計             | —       | —         | —       | —         | 500      | 527     | 1,027   | 1,027  |
| 平成23年3月31日 残高           | 2,473   | 2,426     | 2,426   | 36        | 4,800    | 1,776   | 6,612   | 11,513 |

|                         | 評 価 ・ 換 算 差 額 等 |            | 純 資 産 合 計 |
|-------------------------|-----------------|------------|-----------|
|                         | その他有価証券評価差額金    | 評価・換算差額等合計 |           |
| 平成22年3月31日 残高           | △2              | △2         | 10,483    |
| 事業年度中の変動額               |                 |            |           |
| 別途積立金の横立                |                 |            | —         |
| 剰余金の配当                  |                 |            | △205      |
| 当期純利益                   |                 |            | 1,233     |
| 株主資本以外の項目の事業年度中の変動額(純額) | △0              | △0         | △0        |
| 事業年度中の変動額合計             | △0              | △0         | 1,027     |
| 平成23年3月31日 残高           | △2              | △2         | 11,510    |

(記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております)

## 個別注記表

### 1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

#### (1) 資産の評価基準及び評価方法

##### ① 有価証券の評価基準及び評価方法

- ・ 其他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

- ・ 子会社及び関連会社株式

移動平均法による原価法

##### ② たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）によっております。

- ・ 商品・原材料

先入先出法

- ・ 製品

総平均法

- ・ 貯蔵品

最終仕入原価法

#### (2) 固定資産の減価償却の方法

##### ① 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法によっております。ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については定額法によっております。また、当社は事業用定期借地権上の建物については耐用年数を借地期間、残存価額を零とする定額法によっております。

（主な耐用年数）

建物 15年～31年

器具及び備品 3年～8年

##### ② 無形固定資産（リース資産を除く）

- ・ 自社利用のソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

- ・ その他の無形固定資産

定額法によっております。

##### ③ 長期前払費用

定額法によっております。

##### ④ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし残存価額を零とする定額法を採用しております。

#### (3) 引当金の計上基準

##### ① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### ② 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、将来の支給見込額のうち、当事業年度に対応する額を計上しております。



- ③ 役員賞与引当金 役員賞与の支給に備えるため、当事業年度末における年間支給見込額に基づき、当事業年度において負担すべき額を計上しております。
- ④ 株主優待引当金 将来の株主優待券の利用による費用の発生に備えるため、株主優待券の利用実績率に基づいて、翌事業年度以降に発生すると見込まれる額を計上しております。
- ⑤ ポイント引当金 将来のポイントサービスの利用による費用の発生に備えるため、ポイントサービスの利用実績率に基づいて、翌事業年度以降に発生すると見込まれる額を計上しております。

(4) リース取引の処理方法

当社の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日より前のリース取引については、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。

(5) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっております。

(6) 会計方針の変更

資産除去債務に関する会計基準の適用 当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。  
これにより、当事業年度の営業利益、経常利益はそれぞれ13百万円減少しており、税金等調整前当期純利益は77百万円減少しております。  
また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は188百万円であります。

2. 貸借対照表に関する注記

|                                     |          |
|-------------------------------------|----------|
| (1) 有形固定資産の減価償却累計額                  | 3,704百万円 |
| (2) 関係会社に関する（区分表示したものを除く）金銭債権及び金銭債務 |          |
| 売掛金                                 | 24百万円    |
| 長期貸付金                               | 1,465百万円 |
| その他                                 | 12百万円    |
| (3) 取締役、監査役に対する金銭債権及び金銭債務           |          |
| 金銭債権                                | 1百万円     |

### 3. 損益計算書に関する注記

|           |        |
|-----------|--------|
| 関係会社との取引高 |        |
| 営業取引      | 242百万円 |
| 営業取引以外の取引 | 52百万円  |

### 4. 税効果会計に関する注記

#### (1) 繰延税金資産の発生 の主な原因別の内訳

|            |               |
|------------|---------------|
| 繰延税金資産     |               |
| 未払事業税      | 47百万円         |
| 賞与引当金繰入超過額 | 29百万円         |
| 少額固定資産     | 8百万円          |
| 減価償却超過額    | 70百万円         |
| 事業用定期借地権   |               |
| 仲介手数料      | 26百万円         |
| 前受収益       | 12百万円         |
| 減損損失       | 66百万円         |
| 資産除去債務     | 76百万円         |
| その他        | 26百万円         |
| 繰延税金資産計    | <u>364百万円</u> |
| 繰延税金負債     |               |
| 資産除去債務     | 44百万円         |
| 繰延税金負債計    | <u>44百万円</u>  |
| 繰延税金資産の純額  | <u>319百万円</u> |

#### (2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の主要な差異要因の内訳

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 法定実効税率             | 40.6%        |
| (調整)               |              |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 0.4%         |
| 住民税均等割額            | 2.2%         |
| その他                | <u>△0.2%</u> |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率  | 43.0%        |

### 5. リースにより使用する固定資産に関する注記

貸借対照表に計上した固定資産のほか、店舗建物の一部については所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用しております。

### 6. 関連当事者との取引に関する注記

該当事項はありません。

### 7. 1株当たり情報に関する注記

|                |             |
|----------------|-------------|
| (1) 1株当たり純資産額  | 168,072円00銭 |
| (2) 1株当たり当期純利益 | 18,009円83銭  |

### 8. 減損会計に関する注記

該当事項はありません。

## 9. 重要な後発事象に関する注記

該当事項はありません。

## 10. 資産除去債務関係の注記

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

### (1) 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸契約及び定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

### (2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該契約の契約期間及び建物の耐用年数（主に20年）と見積り、割引率は当該使用見込期間に見合う国債の流通利回り（主に2.17%）を使用して資産除去債務の金額を算定しております。

### (3) 当事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| 期首残高（注）         | 179百万円        |
| 有形固定資産の取得に伴う増加額 | 5百万円          |
| 時の経過による調整額      | <u>3百万円</u>   |
| 期末残高            | <u>188百万円</u> |

（注）当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用したことによる期首時点における残高であります。

# 連結計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成23年5月11日

株式会社あみやき亭

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山 田 順 ㊞  
指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 楠 元 宏 ㊞

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社あみやき亭の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。この連結計算書類の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社あみやき亭及び連結子会社から成る企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当連結会計年度より、「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

# 計算書類に係る会計監査報告

## 独立監査人の監査報告書

平成23年5月11日

株式会社あみやき亭

取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 山 田 順 ㊞  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 楠 元 宏 ㊞  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社あみやき亭の平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第16期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。この計算書類及びその附属明細書の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽の表示がないかどうかの合理的な保証を得ることを求めている。監査は、試査を基礎として行われ、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することを含んでいる。当監査法人は、監査の結果として意見表明のための合理的な基礎を得たと判断している。

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 追記情報

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は当事業年度より、「資産除去債務に関する会計基準」及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査役会の監査報告

### 監 査 報 告 書

当監査役会は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までの第16期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の結果、監査役全員の一致した意見として本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。

各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社及び主要な事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。また、取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制(内部統制システム)の状況を監視及び検証いたしました。子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」(会社計算規則第131条各号に掲げる事項)を「監査に関する品質管理基準」(平成17年10月28日企業会計審議会)等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る計算書類(貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表)及びその附属明細書並びに連結計算書類(連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表)について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- 一、事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二、取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三、内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

### (3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人有限責任 あずさ監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成23年 5月13日

株式会社あみやき亭 監査役会

常勤監査役(社外監査役) 山 田 修 三 ㊟

監 査 役(社外監査役) 大 西 秀 典 ㊟

監 査 役(社外監査役) 隅 田 慶 彦 ㊟

以 上

# 株主総会参考書類

## 第1号議案 剰余金処分の件

剰余金処分につきましては、当期の業績ならびに今後の事業展開等を勘案し、内部留保にも意を用い以下のとおりといたしたいと存じます。

### 1. 期末配当に関する事項

第16期の期末配当につきましては、以下のとおりといたしたいと存じます。

① 配当財産の種類

金銭といたします。

② 配当財産の割当てに関する事項及びその総額

当社普通株式1株につき金1,500円といたしたいと存じます。

なお、この場合の配当総額は102,732,000円となります。

③ 剰余金の配当が効力を生じる日

平成23年6月16日といたしたいと存じます。

### 2. その他の剰余金の処分に関する事項

① 増加する剰余金の項目及びその金額

別途積立金 500,000,000円

② 減少する剰余金の項目及びその金額

繰越利益剰余金 500,000,000円



## 第2号議案 補欠監査役1名選任の件

法令又は定款に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、補欠監査役1名の選任をお願いするものであります。

なお、本議案の提出につきましては、監査役会の同意を得ております。また、候補者からは、監査役が任期中に退任し、法令に定める監査役の員数を欠く場合に、監査役に就任する旨の承諾を得ております。

補欠監査役候補者は次のとおりであります。

| 氏名<br>(生年月日)        | 略歴、地位及び重要な兼職の状況                                                                                                                                             | 所有する当社の株式数 |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|
| 中西安廣<br>(昭和23年7月5日) | 昭和42年4月 協同飼料株式会社入社<br>昭和52年5月 米久株式会社入社<br>昭和63年5月 米久株式会社取締役<br>平成13年5月 米久株式会社常務取締役<br>平成20年5月 米久株式会社取締役常務執行役員営業本部長<br>平成22年5月 米久株式会社取締役専務執行役員営業本部長<br>現在に至る | 162株       |

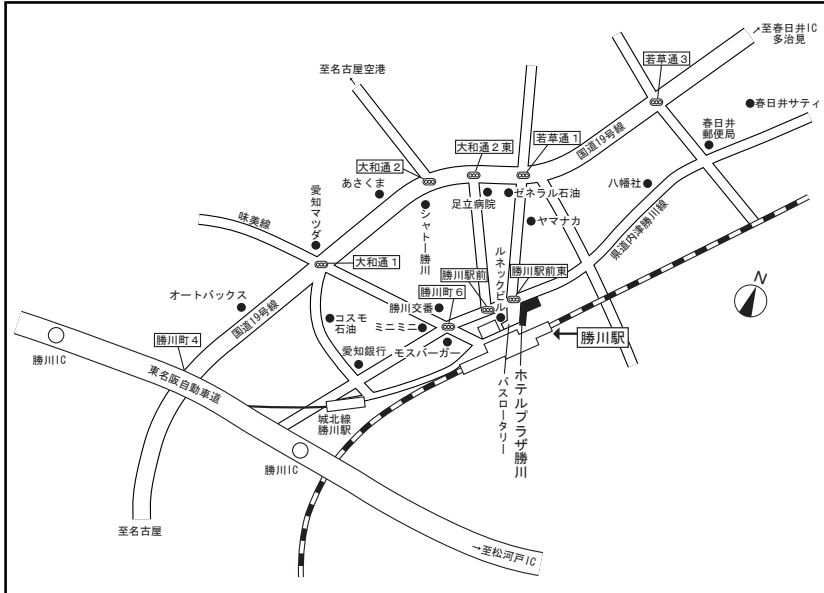
- (注) 1. 上記の候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
2. 補欠監査役候補者中西安廣氏は、補欠の社外監査役候補者として選任するものであります。
3. 補欠の社外監査役候補者とする理由及び社外監査役としての職務を適切に遂行することができる判断する理由について
- (1) 補欠の社外監査役候補者とする理由について
- 中西安廣氏につきましては、上場企業の役員として培われた内部統制知識を監査役に就任された場合に当社の監査体制に活かしていただくため、補欠の社外監査役として選任をお願いするものであります。
- (2) 社外監査役としての職務を適切に遂行することができる判断する理由について
- 中西安廣氏は、直接企業経営に関与され、企業経営を統治する十分な見識を有しておられることから、社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。

以上



# 株主総会会場ご案内図

愛知県春日井市松新町一丁目5番地  
ホテルプラザ勝川 2階 さくら



## 交通のご案内

交通 JR中央線勝川駅のすぐ前

当日は駐車場のご用意ができませんので、お車でのご来場は  
ご遠慮くださいますようお願い申し上げます。